

## 平成 21 年度第 2 回水道水質検査法検討会 議事要旨

1. 日時：平成 22 年 1 月 26 日（火）10:00～12:30

2. 場所：仮設第 3 会議室

3. 出席委員：青木正史、安藤正典、伊佐治知明、宇田川富男、工藤幸生、中村栄子、西村哲治、  
宮田雅典（敬称略）

### 4. 議事

- (1) 検査法告示改正案に関する意見募集の結果とその対応について
- (2) 提案募集案件等新検査法について
- (3) 今後の水質基準等改正に伴う検査法の見直しについて
- (4) その他

### 5. 議事概要

(1) 検査法告示改正案に関する意見募集の結果とその対応について

- ◎ 平成 22 年 4 月施行予定の検査法告示改正案に対するパブリックコメントの募集（期間：平成 21 年 10 月 21 日～11 月 19 日）に寄せられた意見の回答案について、事務局案のとおり了承された。これに伴い、フェノール類の検査方法については、内部標準物質の添加方法は従前のままとし、濃縮操作省略及び誘導体化試薬減量等を改正することとした。

(2) 提案募集案件等新検査法について

- ◎ 検証が完了した 5 つの検査法案件について、以下のとおり、それぞれ今後の対応方針が決定された。公定法への採用可とされたカビ臭物質検査法 3 件については、次回以降の検討会における固相抽出-GC/MS の審議を待ち、これと併せて改正手続に入ることとした。また、次回の提案募集については、ジクワット検証結果の通知後に開始することとした。

#### 1. SPME-GC/MS 法（カビ臭物質）：提案募集案件

- 内部標準物質の候補であるジェオスミン-d3 の供給再開に伴い、公定法へ採用することとした。なお、内部標準物質として、2,4,6-トリクロロアニソールの使用可能性を検討し、可能であれば内部標準物質に採用する。

#### 2. SA-LC/MS 法（ジクワット）：提案募集案件

- 提案された検査法では、高い回収率及び安定した再現性を得ることができず、再現性を安定させるためには多くの不確定要素があり、これらの検討作業を検討会において継続することは非現実的である。そこで検証結果を整理し、提案者において再検討するよう差し戻すこととした。また、当該案件については「継続審査」と位置づけ、提案者から再提案されしだい検討を再開することとした。

3. PT-GC/MS、HS-GC/MS、固相抽出-GC/MS（カビ臭物質）：委員提案等案件

- カビ臭物質の現行検査法 3 件について、①PT-GC/MS は塩析の省略を可能とし、内部標準法に変更する、②HS-GC/MS は内部標準法に変更する方法について、公定法へ採用することとした。一方、③固相抽出-GC/MS も内部標準法に変更する方向で、今後検証を行うこととし、次回以降の検討会にて再度審議することとした。

(3) 今後の水質基準等改正に伴う検査法の見直しについて

- ◎ 今後の水質基準等改正に伴う検査法の見直しに係る作業状況について報告した。
  - ・ トリクロロエチレン：現行の検査方法で 0.0001mg/L まで測定可能であるため、基準値強化に伴う検査法改正は必要ない。

(4) その他

- ◎ 特になし。

以 上